

各種委員会報告

収書委員会

収書委員会は、収書方針の審議、全般的な収書計画の策定、選定基準の決定、蔵書評価等、収書に関する政策決定を行う委員会であり、2001年度は3回開催された。

7月13日の委員会では、①次年度図書館図書費については、概算2000万円増額の事務局案の概略説明があり、これを了承した。②基幹データベースの選定については、受付窓口（中央―マルチメディアエリア、和泉・生田―レファレンス）を定め、収書委員会で決定することとした。③外国雑誌新規購入については、申込の少なかった中央・和泉の残額を生田に充てたいとする新聞雑誌委員会の提案を了承した。

12月3日の委員会では、①ScienceDirectはフリーダムコレクションを契約すると新聞雑誌委員会報告を了承した。ただし契約は単年度ごとに見直しを行い、継続の可否を検討することとした。②2002年度の新規基幹データベースについては、JOIS、LEX/DBを選定した。③研究用図書費の申込締切日を12月末日とすることの概要説明があり、これを了承した。

3月5日の委員会では、①研究用図書費の執行残を学習用基礎資料費に振り向けることの提案があり、了承した。②2002年度図書館図書費の予算配分については、支払手数料が1千万円増額したことの報告があり、支払手数料を除く配分は前年度と同様とすることとした。

新聞・雑誌委員会

新聞・雑誌委員会は、新聞・雑誌の収書について検討する委員会であり、収書委員会の下に位置付けられていて、2001年度は2回開催された。

7月12日に開催した第1回の委員会では、収書に関する基本方針を確認し、逐次刊行物費の現状から引き続き継続外国雑誌の見直しが必要であることを確認した。また、電子ジャーナルについては、無料提供中であったSD-21の有料化を踏まえ2002年度の選択方法について意見交換をした。外国雑誌新規購入については、公募したところ38件の申込があり、審議の結果、予算内に収まることを確認し、全て採択とした。地区間で重複している雑誌については、2000年度アンケートを踏まえ、重複所蔵の中止または保存形態の変更を決定した。

11月22日に開催した第2回の委員会では、新規購入の決まった雑誌のうち、電子ジャーナル利用が可能である雑誌について、希望者の了解を得た上で冊子体の購入を取り下げたことが報告された。これと同様に、冊子体から電子ジャーナル利用に移行していくことを検討していくことが意見として出された。外国雑誌購読の見直し方針を検討した結果、2001年度に見直しアンケートを実施し、2002年度中に結果を出すこととした。このアンケートは電子ジャーナルを考慮した内容とすることも確認した。第1回委員会で意見交換したScienceDirectの契約について検討した結果、当委員会としてフリーダム・コレクション契約を強く希望し、収書委員会へ申し伝えることとした。

特別資料選定委員会

特別資料選定委員会は、複数の学問分野にまたがる基本的な学術資料、学内の学際的な研究グループが必要とする学術資料、学内のユニークな研究プロジェクトが必要とする学術資料、貴重な大型コレクションの4つの収集基本方針をふまえて、大型(高額)な特色ある資料を選定する委員会である。

図書館長のもとに図書委員、図書館員あわせて7名で構成される。

2001年度は6月6日に第一次選定を、12月5日に第二次選定を行った。第一次選定では12件の応募から「抱谷文庫旧蔵京阪歌舞伎番附文化〜明治期」「大学の歴史ードイツ及びドイツ語圏の大学史に関する稀観書のコレクションー」「絵入新聞イラストリールテ・ツァイトウング」の3件を選定した。第二次選定では第一次選定で不採用となった分と追加応募あわせて17件から、「絵入週刊誌『ユーゲント』」、「零葉挿絵入頭文字『鐘を演奏するダビデ王』」、「ビュフォン『博物誌』」、「アダム・スミス『国富論初版』」、「英国外務省機密外交資料」の5件を選定した。

アフリカ文庫選定委員会

アフリカ文庫は1979年の開設以来(当初はアラブ・アフリカ文庫)、本学の特色あるコレクションの一つとして、毎年、選定委員会により重点項目が決定され、選書・収集が行われている。選定委員会は図書館長のもとに5名の教員により構成される。

2001年度は7月4日に第1回、11月20日に第2回の委員会を開催した。第1回では2001年度の選書方針を決定した。従来どおり基本文献の収集に努める一方、他大学からも高い評価を得ている特色あるコレクションなので、現地語の収集にも重点をおいてはどうかとの意見が出された。第2回では、考古学的なコレクションの扱いや、African-collection等の個別の選書を行った。また、委員から退職者が2名出るので、委員の補充と積極的な運営の要望があった。

学習用図書選書委員会

学習用図書選書委員会は、駿河台、和泉、生田の三地区の学習用選書について協議・調整する機関として設置されたもので、必要に応じて委員会を開催する。

各館における学習用図書の選書体制は次のとおりである。

中央図書館は、駿河台地区の各課より選出された委員で構成している中央図書館選書委員会(委員長は総合サービス課長)を、隔週の金曜日に定例開催し、現物見計いや寄贈図書の選定のほか、全国書誌と東販の新刊情報、図書新聞等によるカタログ選書、シラバス図書の扱い等、選書に係わる諸課題を検討している。

和泉図書館では担当者が主にカタログ選書を行っているが、2002年度より課員全員による現物見計いを開始することになっている。生田図書館では現物見計いと指示見計いを担当者を置いて行っている。また、1999年度より教員による学習用選書委員会が発足している。3地区とも図書委員を中心に選書が行われ、申込件数は増加している。

学習用基礎資料選定委員会

学習用基礎資料選定委員会は、図書館として備えて置くべき基本的な資料のうち、特に大型(高額)の資料や、図書館の個性形成に資する特別な資料を計画的に収集するために設置された委員会で、図書館員5名より構成される。

個性形成に資する資料については、次のものが予算化されている。

①明大文庫(中央図書館)、②日本近代文学文庫(和泉図書館)、③地方史・誌(中央図書館)、④蘆田古地図(中央図書館)、⑤女性問題資料、⑥江戸文芸文庫。

2001年度は7月13日に第1回を開催し、12件の候補から6件を、2002年1月22日に第2回を開催し、13件の候補から9件を、2002年3月5日に第3回を開催し、継続マイクロや新規候補より7件を選定した。

図書館紀要編集委員会

「図書の譜—明治大学図書館紀要—」は、1996年に後藤館長(当時)のもとに創刊号を刊行した。図書館員の自己研鑽、資質の向上を図るべく研究成果公表の場を用意し、図書館資料の紹介や書誌学研究などを通して利用者サービスにつなげることを目的としている。2001年度は2002年3月29日に第6号を刊行した。

第6号は288頁、内容は以下のとおりである。

①巻頭言新中央図書館の開館と今後の課題(野上修市) ②利用者から見た新中央図書館(松浦寛、佐々木英智、田仲桂、青木久、小西道人、竹枝由夏、上井長十) ③新中央図書館における利用サービス(中村正也) ④マルチメディアの利用状況(畑野蘭子) ⑤図書館パッケージと外部システム連携(中林雅士) ⑥山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムの利用状況と展望(飯澤文夫) ⑦近世日本におけるハウトイン『自然誌』の利用(平野満) ⑧西安碑林と『西安碑林全集』(氣賀澤保規) ⑨風刺画で101年生き続けた雑誌“Fliegende Blätter”(穂満美恵) ⑩ジェンダー論(堀口悦子) ⑪ジェンダー論文献案内(平田さくら) ⑫わが古墳研究50年(大塚初重) ⑬大学図書館の利用教育を考える(斎藤哲) ⑭図書館における利用者満足に関する研究(山下洋史) ⑮国境のない図書館びと(坂口雅樹) ⑯中国国家図書館(岡野誠) ⑰ラオス国立大学経済経営学部図書館の運営・管理支援について(柴尾晋) ⑱ひとまねこざるシリーズ(桐原聡子) ⑲冒険としての読書(後藤総一郎) ⑳私にとっての「いま、あらためて『活字文化』を考える」(折戸晶子) ㉑「江戸文芸文庫」蔵書解題(一)(内村和至)

広報委員会

広報委員会は、図書館報、図書館利用案内、図書館だより「らいぶ」、図書館ホームページの各編集委員会で構成し、編集責任者のもと企画検討を行い、発行または公開している。

2001年度の活動は、昨年掲げた目標である「より進歩してゆく動向への対応」および「外部への開放に対するPR準備」を中心に、企画検討を進めていった。

図書館報では、従来の記事である特別資料紹介、レファレンス通信などを継続しつつ、

外部支援の一環としての「ラオス国立大学への支援の取組み」や、「デジタルコンテンツの充実へ向けて」、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムの利用状況の紹介等を各号に掲載した。

図書館利用案内では、利用案内別冊のスタイル変更（ロゴマークの取入れ、サイズ変更等）および他との統一を行い、紙面の充実を図った。特に、オンライン検索の手引きを紙面も新たに「OPAC ユーザーズガイド」とするなど、より実用的なものとして発行した。

図書館だより「らいぶ」は年4回発行している。今年度は春号にて改めて中央・和泉・生田各図書館の紹介をし、夏号以降では図書館報同様各号に山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムにおける相互利用の周知を目的として、加盟館の特色や、蔵書構成など、写真も交えて紹介した。

図書館ホームページでは、マルチメディア・エリアの機器、サービス等についてのガイドおよびデジタル情報源ガイドを公開した。今後は、利用者にとってより使いやすいホームページと正確な情報発信を目標に、さらなる充実を目指している。

なお、これまで発行してきた図書館報および図書館だより「らいぶ」は、今年度をもって終刊し、今後はこれに替わり、広報誌を統合し、情報の充実を念頭に新広報誌を発行する計画を検討した。

個人情報の保護に関する監査委員会

「図書館における個人情報の保護に関する要綱」（1995年度例規第8号）第10条によると、「監査委員は、相当の期間内に監査を行い、その結果及び概要を図書館長に報告にしなければならない」とある。

監査委員による監査は、2001年3月8日に図書館庶務課、総合サービス課の2部署を対象に実施された。中央図書館開館に伴う個人情報の保有に関し、新規の保有、変更、廃止等の変動の有無と、これらの個人情報の運用について監査を行った。その結果、各々の事項が適正に運用されていることを認めた。

監査委員の指摘事項として、「ファイル簿」については、閲覧に供することを目的とした形を整えること、保有開始年月日を記載しておくことや、情報収集を停止したものについては、その年月日・理由を記載し別途記録を残すことを求めた。また、利用者拡大に伴い、ファイル簿利用については十分注意を要することを今後の留意点として挙げた。

図書館自己点検評価委員会

図書館自己点検・評価委員会は、教学自己点検・評価委員会からの依頼に基づき、報告書を作成するための委員会である。

12月18日、担当者打合せを行い、自己点検・評価報告書の概要説明、各自の執筆分担を定め、報告書作成までのスケジュールを確認した。

2001年度は2000年度と同様、箇条書き・表形式で作成して、点検・評価項目ごとに2000年度の課題・2001年度の進捗状況・2002年度以降の将来の改善・改革方策を記載

する。課題ごとに番号を振り、読みやすく解り易い報告書の形式となっている。

報告書の原案は、職員委員による内容検討を行った後、木谷委員長のもとで委員会で再度検討修正し、3月13日の図書委員会に原案を提出し、了承された。これをもって、報告書を教学自己点検・評価委員会へ提出した。

